二、我が黨は大衆の要求を取り上げて果敢に戰ふことを任務としてゐるが、その際特に注意すべきことは、或る具體的目的のためにカンパニアを組織する際、我黨々員のみで鬪爭組織を確立して、他黨大衆に「我々はこれの鬪爭を行ふから諸君も這入つて來い」といふ樣な態度を取るべきではなくて、先づ共通の不平不滿を持つてゐる全大衆に宣傳煽動して、大衆の中から鬪爭を卷き起こさしめ、我が黨は、事實上、それを指導しつゝ、大衆の間に或る一定の具體的要求を貫徹するための鬪爭組織を作らしめるべきである。例へば、或る一地方の無產大衆が、電燈料の値下げを痛切に要求してゐるとする、さうした場合に、我黨は、電燈料値下げの猛運動を起すべきであることを大衆の中へ宣傳煽動する。そして大衆が奮起した場合には、我が黨が事實上それを指導しつゝ、大衆に電燈料値下げ期成同盟と言つた樣な自主的鬪爭組織を作らせるべきである。そして、我が黨が卒先して、その組織に參加し、我が黨員は全大衆の先頭に立つて最も勇敢に戰ふべきである。さうすることによつてのみ、他黨大衆をも容易に共同鬪爭に卷き込むことが可能であるし、又、他黨大衆をして誰が最もよく大衆の爲に戰ふものであるかを知らしめることが出來るのである。(曾つて同志山本宣治が、兇刄に倒れたとき、大阪の同志たちが、全勞働者の憤激を美事な協同鬪爭に組織し得た經驗を攝取せよ。)條件さへ備はつて居れば必ず他黨大衆は立ち幹部もそれに押される。若し他黨幹部が共同鬪爭に進出して來ない時は、その時こそ、その幹部の非階級的なこと——勞働者の要求を鬪はふとしないものであること、——を最も有効に曝露することが出來るのである。

三、他黨幹部が共同鬪爭に進出して來た場合、決して初から彼等の過去の非階級的行動を洗ひ立てゝ攻擊などしてはならぬ。共同鬪爭の中に於て、わが黨が最も勇敢に戰ふことを具體的に示すべきである。もしその共同鬪爭の過程に他黨幹部が裏切的行爲を行つたならば、その時こそその生々しい裏切行爲に過去の裏切的行爲を結び付けて曝露すべきである。

だが、共同鬪爭に於ては他黨の裏切的行爲を鵜の目鷹の目で探すといふよりも、むしろ自分自らが最も勇敢に鬪爭することを示すことに重點が置かれなくてはならぬ。

四、共同鬪爭に成功することは先づ第一段の成功である。だからこの第一段の成功を得るために共同鬪爭を現實に持ち得るやうに注意せられなければならぬ。即ち他黨幹部を初から攻擊したりすることも避けられなければならないし、事情によつては他黨幹部に共同鬪爭の話を先づ持ちかけなければならぬ場合もあるだらう。それも潔癖をいつてはならぬ。或は他黨幹部が提唱する形をとることも許されなくてはならぬ場合があるだらう。所謂イニシヤチーブを必ずしも形式の上で取らなくてもよい。

かくして共同鬪爭を成功させて繰り返し〳〵之れを行ふうちに戰線統一の要求が生れて來て、戰線統一の問題を持ちかけても他黨幹部が之を拒否し得ざるほどの大衆的素地が出來上る。

五、共同鬪爭は政黨としてよりも組合としての方が可能な場合が多い。從つて先づ組合の戰線統一が第一目標となる。

六、現に合同もしくは聯合の話が持ち上つてゐるのに「先づ共同鬪爭をやつてから」といふやうな融通のきかぬ態度の間違であることは云ふまでもない。

七　非階級的幹部の無力化

(六)戰線統一の項——參照)

彼等の爲す具體的行動を捕へて、それが如何に勞働者もしくは農民の利益を裏切つて居るかを具體的に大衆の前に曝露して大衆の信頼を失はしむべきである。

單に抽象的に彼等は議會主義者である、彼等は社會民主々義者であると如何に强調しても、それは何等の効果を持つものではない。

われ等は共同鬪爭、戰線統一、を要求するが——否、要求すればこそ、かゝる曝露を用捨してはならぬ。

八　アナキスト的傾向の克服

(六)戰線統一の項——參照)

一、强度の彈壓下に在つては、社會民主々義的傾向と、極左的傾向とが生じ勝ちであるが、我々の陣營にも、現在アナーキスト的傾向が生起しつゝある。それを一部の新勞農黨反對派に見る。

例へば二三人で勞農同盟全國委員會をデッチ上げて、何等大衆との關連なく革命的言辭を弄して自ら滿足するが如き、或ひは大衆の要求や意向や、現實の必要を離れて原則論を頑强に振りまはして、結局一人ボッチに陷るが如き、或は農民の要求を無視することを以て「プロレタリアート(勞働者階級)的」だと思つてゐるが如き、はその例である。

二、我々は、大衆の現實の要求をとらへ、現實の必要に即して果敢に鬪爭し、現實に何者が最も勇敢に忠實に大衆の爲めに鬪ふものであるかを示して大衆を組織し訓練してアナ的傾向を完全に無力化せしめねばならぬ。

九　勞働者農民の同盟の强化

わが黨が即ち勞働者農民無產市民の同盟體である。勞働者